

知床の森から

平成6年12月
第34号



北見宮林支局

知床森林センター

099-41 北海道斜里郡斜里町本町11番地

01522-3-3009

FAX 01522-3-3160

猛暑！ドングリに影響

今年の夏は暑かった。知床も例外でなく暑い日が続きました。森林の樹木の花はよく咲き種実の豊かな実りを予想させました。そして今年は西暦偶数年、堅果を繁殖手段とする樹木にとって豊作の年に当ると一般的にいわれている年です。ミスナラの堅果であるドングリもこの一般論に含まれます。ドングリもまた柿やリンゴのように年（豊作年）・不なり年（凶作年）という隔年性があるからです。

では今年の知床のドングリの結実状況はどうだったでしょう。知床森林センターでは平成元年から「ミスナラ堅果結実調査」を行っています。今年の調査の結果を紹介しましょう。

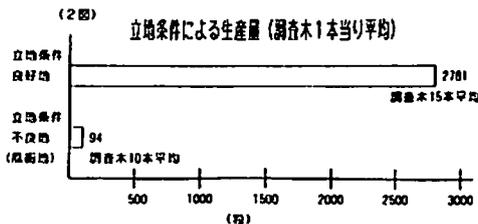
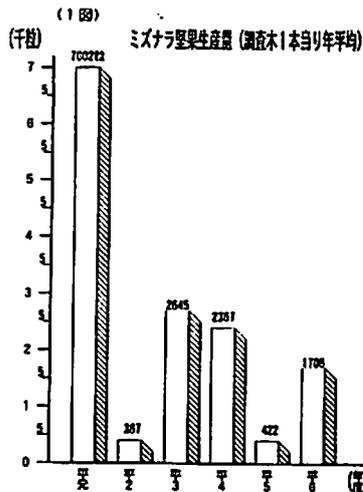
1図は調査木の樹冠下に3個設置した1㎡のシートトラップで採取したドングリの粒数を、トラップと樹冠面積の比率（倍数）で得た粒数の、25本の調査木の1本当りの平均生産粒数です。調査木は立地条件の異なる2箇所にあり、それぞれ直径（樹令）が異なります。

今年の生産量は昨年の冷夏による凶作より4倍の生産がありました。平成元年の大豊作と比べると4分の1にも達しません。これでは今年は昨年の凶作から立ち直ったという程度です。

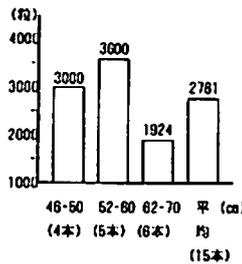
次に調査木のある立地条件から、場所によって生産量の多少をみます。

2図によれば、内陸部の立地条件良好地15本の平均生産量は、オホーツク海の潮風の影響を若干受ける立地条件不良地（風衝地）10本の平均生産量を大きく上回っています。

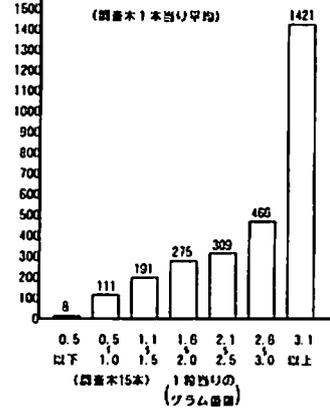
なお立地条件良好地の15本は生産量に個体差があるのに対し、立地条件不良地での10本はすべて低い生産量となっております。



(3図) 立地条件良好地の直径階別平均生産量



(4図) 立地条件良好地の直径階別生産量



立地条件（環境）が同一なら生産量の多少は個体差によって異なります。個体差を胸高直径（胸高直径を樹の年齢と大胆に見做して）から見たのが3図です。生産量の多い立地条件良好地の15本の調査木についての、直径階ごとの1本当り平均生産量は、52-60cmが生産量が高く62cm上では下がります。例外もあるでしょうが樹令が高くなると生産力が衰えてくるのは当然といえます。

今度は生産量を質の面から見ます。4図は立地条件良好地の生産量を、重量階別に求めた1本当りの生産量です。1粒当りの重量が0.5g以下の生産量は8粒で極端に少なくなっております。これは8月下旬から9月初旬にかけて、殻直径5mm前後の未熟堅果が多く落下するという現象が確認されておりそのせいと思われます。1g以下のものは明らかに未熟果で、殻を付けたまま落下しているのが多いのもこのクラスです。そして3.1g以上のドングリが極めて多かったのが今年の特長です。中には1個8.5gという秀れものも採集されております。そして完熟しているドングリはその表面の光沢が艶やかに輝いていました。

ほかにも今後の分析を待つ点がありますが、今年の知床半島のミスナラ堅果の生産量について結びたいと思います。

雪解けも順調にスタートした知床の森林は、多くの樹木が開花しミスナラもまた同様に暑い夏を迎えました。暑い夏は雨を呼ばず森林内は乾燥が進みました。8月下旬頃からドングリの未熟果が落下し始めました。これは水不足のため、大量に結実した堅果の生産調整を、樹自身が実施したのではないかと考えられます。保水能力の悪い箇所では開花しても結実にブレーキがかかったかもしれません。さらに結実能力の低下している樹もまた同様です。

堅果の落下時期になると、立地条件良好地の樹勢のある樹が生産調整の結果もかわらず、健全な完熟堅果を大量に生産したといえます。しかし、結実能力のある全てのミスナラがドングリ生産に参加できなかった事実から、その主たる原因を夏の猛暑と雨不足に求めて間違いないと思われる。知床半島のドングリは、調査木のデータでみるかぎり、今年は例外的に凶作といえるでしょう。

大賑わい！知床野営場

今年も知床野営場は賑わいました。暑い夏が野外志向を掻立てたのでしょうか、バイクとRV車が知床に溢れました。そしてファミリーの滞在型が目につきましたが、これは2年くらい前から漸増している傾向です。

知床の今年の特長は、国道その開けた海岸草地や路傍の空き地、国道から林道に入る付近の空き地や河川そばに、色とりどりのテントが張られ、のんびり寛ぐ家族の姿が見られたことです。きっと野営場に入り切れず野余の場所確保だったのでしょう。車の登録局も全国各地のもので、夏は北海道へ、知床へガロマンを伴って定着しているようです。

知床野営場は素朴そのものです。施設は最新でなく、ただ場内の大木の緑と散策路の鳥の声という自然たっぷりの環境が、アウトドアに選んでいるのだといえるでしょう。

知床野営場利用状況 [6月下旬から9月下旬まで]

